



関西本線

ウォーキングガイド



えいわ

永和駅 編

コースガイド

▶ウォーキング距離：約 4.5 km

▶参考所要時間：約 1 時間 30 分

自然と歴史を感じるコース

愛西市は清流木曽川をはじめ数多くの河川があり、水との深い関わりの中で生まれた、独自の文化が息づく、水と緑に恵まれた街です。永和駅周辺にも大野城址をはじめ、歴史あるポイントがあります。自然や歴史をお楽しみください。



あいさいさん



大野神社



あいさいちゃん
©AKR Illustr: 伊藤彰

愛西市に行ったらこんなお土産がオススメです



■あいさいさんグッズ

幅広い世代に愛される愛西市マスコットキャラクター「あいさいさん」のグッズです。文房具やぬいぐるみなど多彩なグッズも大人気です。

※愛西市観光協会

(道の駅立田ふれあい里内) にて販売

■レンコン

愛西市は全国的に有名なレンコンの産地です。愛西市のレンコンは、新鮮さを保つために“土付き”で出荷されるのが一般的です。



時間があれば寄ってみよう



■船頭平閘門

パナマ運河に似た構造から「小パナマ」と呼ばれる珍しい施設。国の重要文化財に指定。

■道の駅 立田ふれあいの里

愛西市の名産品が大集合！レンコン蒲焼きやレンコンソフトクリームなど特産品を使ったオリジナルメニューも多数提供しています。



■森川花はす田

蓮見の会の会場となる鑑賞田。「立田赤蓮」、「ミセススローカム」などが楽しめます。蓮見の会は毎年7月に行われています。

関西本線

全路線図

関西本線は、名古屋～大阪間を最短距離で結び、自然景観から都市景観まで多様な魅力が楽しめる路線です。

JR西日本

JR東海

JR難波 天王寺 三郷 王寺 法隆寺 大和小泉 郡山 奈良 平城山 木津 加茂 笠置 大河原 月ヶ瀬口 島ヶ原 伊賀上野 佐那具 新堂 柘植 加太 関 亀山 井田川 加佐登 河曲 河原田 南四日市 四日市 富田浜 富田 朝日 桑名 長島 弥富 永和 蟹江 春田 八田 名古屋



達磨寺 (奈良県・王寺町)



岩船寺 (京都府・木津川市)



九華公園 (三重県・桑名市)



森津の藤 (愛知県・弥富市)



おすすめコース

永和駅



徒歩約 9 分

1 大野神社

祭神は天照皇大神、応神天皇、迦具土神。創建、勧請は明らかではありませんが、神明社の棟札には「明和六己丑才」(1769) 四月吉日、寺西駿河守家福、八幡社の棟札には「元禄七甲戌年(1694) 正月吉祥日寺西三郎大夫家定」と記されています。『張州府志』には「八幡祠、神明祠俱在大野新田村」とあります。大正 3 年 10 月に八幡社、神明社、秋葉社の三社を合祀して旧称神明社は大野神社と改められました。

徒歩約 9 分

2 大野城址

3 へ徒歩約 20 分

大野城(砦)は戦国時代、蟹江城の支城のひとつとして築かれ、天正 12 年(1584)4 月、秀吉対家康の「小牧・長久手の戦い」の前哨戦である蟹江大野合戦がこの地で起こりました。大野城主山口重政は、母を人質にとられながらも徳川方に味方し敵を撃破、徳川の天下取りの基礎を築きました。この戦いを記念し、昭和 54 年に碑が建てられました。



3 富士浅間社

4 へ 徒歩約 12 分

祭神は木花佐久夜毘売命で迦具土神を合祀。善太新田の開発者の服部安久は、尾張公の家老成瀬公の内命によって、正保 4 年(1647)の開墾着手すると先ずその開墾成就を名古屋の納屋裏広井村(現名古屋市中村区)の浅間社に祈願しました。爾来、営々と開墾に従事して万治元年(1658)に業成り、荒蕪たる地が稲田に変わりました。これは、開墾成就を祈願した浅間神社の霊験のたまものだとし、万治元年に御分霊をこの地に移し、この地の産土神としてお祀りしました。



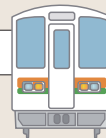
4 神明社・八剣社

祭神は天照皇大神と日本武尊。由緒・勧請年代については不明ですが、元禄 10 年(1697)と天明 2 年(1782)の棟札が残っており、天明 2 年の棟札には「新造神明八剣社一宇御舎繁昌所 天明二壬寅年五月吉日、大原吉大夫」と記されています。村の起源を語る内藤東甫撰の『張州雜志』には「近隣最大の名刹成信坊がこの地に在った」と記され、古き良き村であったことを教えています。

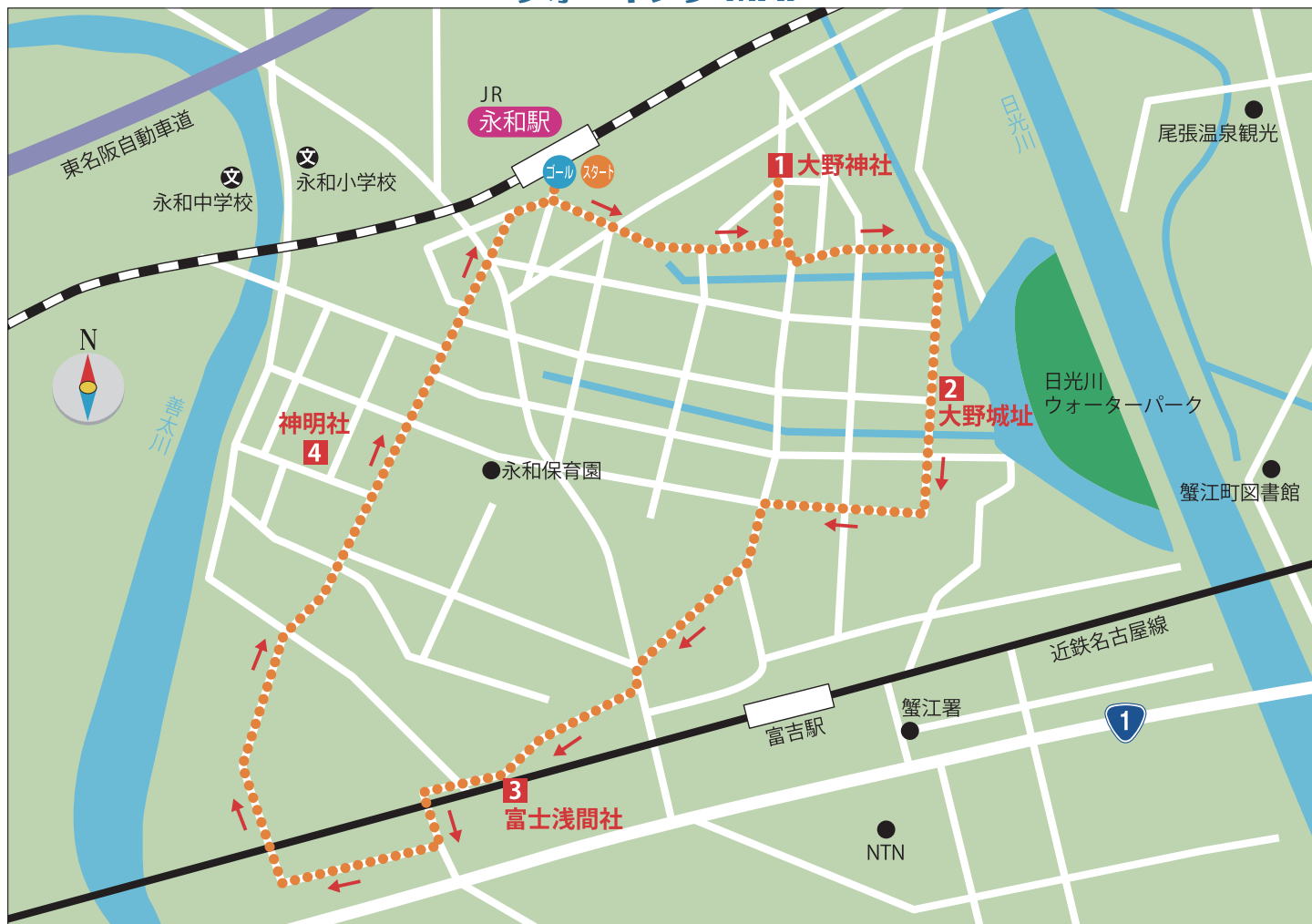


徒歩約 10 分

永和駅



ウォーキング MAP



お問合せ

愛西市観光協会

TEL : 0567-55-9993

FAX : 0567-28-5870

関西本線整備・利用促進連盟事務局(三重県交通政策課内)

TEL : 059-224-2622 Email : kotsu@pref.mie.lg.jp
H P : <https://www.kankomie.or.jp/report/1674>



2024年3月発行